石桜新聞

発行所
盛岡市仁王田圃
岩手高等学校
岩手中学校
出版委員会新聞部
責任者　高橋純一
印刷所
岩手日報社

しめやかにプール献納式

盛大なプール開き

模範泳法にかたず呑む

◇昨年秋、我校脇にプールが新設されたが落成式をかねた挙行◇
◇このプール開きが去る七月十四日、午後一時から盛大に行われ◇
◇た。我校のプールは一昨年の五月着工以来、実に一年五ヵ月◇
◇の日時と総工費四百万円の費用で工事が進められ途中多少の◇
◇支障はあったが工事主任や学校当局の熱心な協力でめでたく◇
◇完成したわけである。

当日はやや薄曇りではあったが三田理事長夫人、県水泳連盟理事長、瀬川咬夫氏、その他多数の来賓先輩の方々、それに各校生徒が出席し式を行った。

最初に神主によるおはらいがあった後、学校長のプール経過報告と会場を徒歩開し、一位の選手の挨拶があり、次いで学校長PTA会長佐藤民氏、戸鳴先生、瀬川咬夫氏、生徒会長角掛勝彦君の玉串奉奠の後、全校生徒によって祝歌が斉唱され式が終了した。

次に招待した市内小、中、高校それに本校水泳部の選手たちも加わりおいに力泳し、白熱したレースを展開した。

まず最初に小学校の部が行われたが出場したチームが城南小学校一チームだけでちょっと物足りなさを感じた。しかし中学校の部においては下橋中学、河南中学、厨川中学、それにオープンとして本校中学水泳部が参加して熱戦を展開し、一位厨川中学チーム、二位河南中学チーム、三位河南となった。

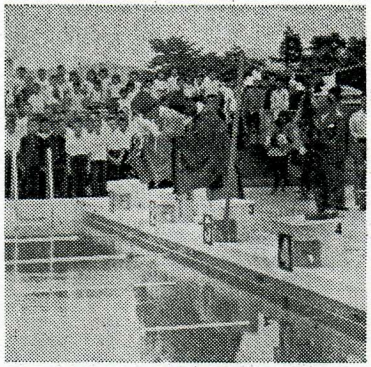
次いで高校の部では盛岡一高と本校とが対戦し、終始熱戦をくり返したがわずかの差で本校が一位となった。

次は当日の呼びものである二百メドレーリレーと自由形二百リレーは、先輩による戦前卒業した戦前派学生チーム、戦後卒業した戦後派学生チームと本校高校水泳部、中学水泳部の四チームに別れて開催した。

最初に二百メドレーリレーが行われ、戦後派学生チームが一位となったが、自由型二百リレーにおいては本校現役チームと戦後派学生チームとの間で、終始熱戦をくり返したがついに戦後派学生チームがタッチの差で本校現役チームをしのぎ、プールサイドをうずめた。

途中、県水泳連盟理事長瀬川咬夫氏による、古式泳法・水浮流の模範泳法を行い、おおいに観客の声援を得た。

次に全校生徒が教室に入り、先生から記念の紅白のお菓子を頂戴した後、中には帰ったものもあったが、ふたたびプールに集った。今度は卒業生チームと県下にチームしかない本校チームとで水球が行われ手に汗握る熱戦が展開された結果、前半4：0、後半2：2の接戦をつづけ計6：2の大差で本校チームが卒業生チームを敗って幕を閉じた。



【関係者、先輩、生徒を前におごそかに神主による献納式】

学校行事予定

▽運動会　九月　九日
▽前期末考査開始　九月　二十日
▽県中学水泳大会　十月六・七日
▽高一・二AT　十月　十九日
▽模擬試験　十月二十六日

図書悪質行為

学生、諸君シーズンの秋に入り本校の図書館もとのどかめっきり生徒の出入りが多くなった。

さて、夏休み以後より、生徒諸君の図書館における悪質行為がめっきりふえてきた。

この悪質行為は参考書の重要な部分を切り取ったりするようなアンダーラインを引いたりする。これでは我々が望んでいる館外貸出しも不可能と思う。兎角我々の図書館である以上我々の良心をもってこういうことは是非ともなくしたいものである。

論説　闘魂を燃やせ

今年度の高体連、県体も帰りなく終り、次年度における各官部の活動期も、一応峠を越したかのように思われる。

優勝旗の数で云々するのではないが、今年の本校体育各部、やはり『不振』ではなかったろうか。

今年は、高体連、県体のいづれも、各種目に輝戦の果惜敗している。優勝旗、優勝杯が林立した数年前を思えば、やはり何かものさびしい。

昨年は、野球部が県大会、甲羽大会に優勝して、甲子園に出場した事を、誇りと感じ、あたかも自分までが野球部の選手ででもあるかの如くに嬉しく感じたものだ。

優勝することそれ自体が、何の積目においても、選手以外の我々にも誇りを感じさせるものであることは、今更言うまでもないことである。

今年の本校、テクニーにしてもバレーにしても、強敵なるメンバーを有していながら、優勝を成し遂げられなかったということは、いかにも残念なことであった。

敗因究明では、どの部も『ファイト不足』を挙げている。

ファイト＝闘志に欠けている、ということは近年の本校において、よく聞かれる言葉である。先輩や諸先生からもよくいわれる。だがこれを『耳にたこ』式に聞き流したり、意識してはいても、実際に行動面に移していないで、結局は単なる標上における一種の慣例語に止っているというのが現状ではなかろうか。

『闘志満々』とよく言う。がしかし闘志満々、溢れるばかりの闘魂を、そのまま試合にぶち込んで戦った部がいか程あったか。『投で勝ってファイトで敗けた』などというのはなかったが、もしあったとしたら恥しいことだといわねばなるまい。

高校のスポーツから、ファイトを減じて、何処にその真の存在価値を認め得ようか。ことに各校の実力がほぼ接近して来た今日においては、なおさらのことである。

もう一度と、試合にも、練習にもファイトを持って臨むことは出来ないものであろうか。

スポーツの目的やはり勝つということにあると思う。体を鍛えるだけなら体操の時間でも間にあう。

諸君、ファイト！ファイト！ファイトを燃やそう。

生物　発表会参加

日本動物植物学会東北支部大会青少年部研究発表会は、去る八月十八日（土曜日）、岩手大学一般教養学部に於て、東北各県の小学中学、高校生約十名の出席のもとに行われた。

会場は、第一、第二会場に分けられ、本校出場は「生態、発生の部」である第一会場であった。

本校からは高二Dの金野浩、村田仁志、古谷広太郎の三君が出場し、大いに日頃の研究の程を発表した。暫くして、『イモリの発生観察』を研究発表した金野浩君、又村田仁志、古谷広太郎君が共同で『ボンシュウオの発生観察』を発表し、どちらも、その研究発表の成績が優秀である旨の表彰状が授与された。

J.R.C団員

トレセンに参加

学校社会の良いリーダーを作るための青少年赤十字トレイニングセンターが去る七月二十三日から三日間、志和稲荷の社務所で開催され、本校から三名が参加した。

今や学校、家庭、社会のBの方面の教育も、この公民教育の方向に向っているがトレイニング・センターの生活はその総合的なものである。

即ち県下の二十一校の代表七十三名により三泊四日の団体生活が行われた。

ハウドユドウーの歌で四日間の団体生活が開かれた。団体生活中の長を村長といい、他の参加者は村民で村長は互選で二日ごとに変る。すなわち村民大会である。その中には宗方の講話や水上安全法、家庭奉仕法の受講等があり、班ごとに別れてのデスカッションにより、大いに自分の意見を述べ、また他人の意見も聞き入れ納得することにより大いに自分を養うことが出来る。また各会員相互のレクリエーションや歌により見す知らずの人と友達になることが出来た。

インターハイに参加して

我々二行が神宮参見ながら盛岡を後にしたのは、十五日の夕方十八時十五分発臨時準急行列車であった。車中大会における組合せ等のことを話し合いながら夜のふけるのも忘れていた。

十六日朝宿舎である晴香荘に到着し昼頃まで睡眠し、午後から先輩である日大水泳部の渡辺さんを訪ねた。その後軽い練習をし、丁度日大水泳部の人達がおったので渡辺さんに練習試合をしてくれるようにお願いした。それを快よく引き受けてくれ、古川選手も一緒になって色々と指導して下さったり試合して下さったりした。そのため我々の知らなかった事等を教えられ明日の試合は全力で戦うと各自の胸に密め床についた。

試合は、時間始なので一時頃、会場である日大プールに行き、試合を見学しながら我々の番を待った。我々の相手は優勝候補の山城高校であった。山城高は過去に於いても敗れているので相手にとって不足はないと全員ファイトを出して戦った。水温は我々にとっては絶好のコンディション、山城高は少し乗がっていた。センターボールも二年の吉田君がとり攻撃にうつったが山城は試合運びがまくいつも惜しい所でボールを取られた。結局今年も文句なしに敗れたが日大の人達は点数の差ほど技術はまされていない。山城は試合なれしていた所だけが長じていたと後になっておしえてくれた。

その後も東京に滞在中毎日日大のプールに行き、試合を見学したり日大の人達に練習マッチを お願いしたり少しでも深く水球についての技術を身につけるため熱心に教えを受けた。二十日午後日大の人達に送れをのべ、来年も必ず出場することを約束し別れを惜しんだ。

翁墓に合掌す

例年の通り創立者三田義正翁の墓参りが、去る八月十三日（月）午前九時より大慈寺前久昌寺において行われた。

この日は諸先生並に生徒、約十名が参加した。

先年我校先生の姪香、次いで先生方の合掌があった後、生徒代表佐藤勝夕君の焼香につづく本校生徒の合掌があって、九時三十分解散した。

登山研修会行わる

七月二十一日と二十二日の両日登山コース研修会が全国大会、第一次予選を兼ね岩手山（二ツ石、大食岳、網張）の三点を中心に行われた。大会は清難対第研修会とAコース（松川）Bコース（滝ノ上）とし岩手県警察部、岩手遭難対策協議会の後援の下に大々的に行われ、本校は沢井、田沼、安部赤坂、渡辺、小笠原が参加した。二十二日岩手山頂上において遭難が有り、遭難救援隊が結成されその際に本校山岳部の機敏な行動と協力に対して、感謝状が授与された。

八月二十八日と二十九日の両日は、早池峰山縦走において全国大会第二次予選が行われた。大浪小学校々庭の雨の中で開会式が始まり、静けさと、緊張の内に、アルピニストの宣言が行われた。

大歓迎の内に平津戸駅にて閉会式が行われ、厳粛な空気の中で本校山岳部は一年連続優秀技術校に選出され、賞状を授与された。

断言

夏休みも終りました、時期も勉学には最適、精々頑張りましようさて禹言を二つ三つ。

×　×　×

創立者三田義正翁のお墓参りがお盆の十三日行われた。高校参加者だけの一名。いくら希望者でも少なすぎます。『映画を観ている奴隷がうらめしい！』

×　×　×

『初め満員、後に数名』ーいいえ、パチンコ屋じゃありません。夏季講習の事です。太陽の季節です、頑もうたりましようが、そこ冷房とか！。

×　×　×

図書館の本、処々切り抜かれているのがある。いやはや、全く、本校の勉強家（？）にも困ったものクイズの推理作文とは違いマッセ

×　×　×

雨が降ります雨が降る私の自転車びしょぬれだ

自転車置場がまだ出ぬ

帰りも『チリリンチリリンとベルがなる』てな具合には行きませんものねえ！。

最近五箇年
大学別入試問題集
三省堂刊

過去五年間の問題はこうだ！

問題収録校
北大・東北大・東大・一橋大・東工大・東京教育大・東京外語大・お茶水大・横浜国大・名大・京大・阪大・大阪外語大・神戸大・広大・九大・東京都立大・大阪市大・神戸商大・早大・慶大・津田塾大・立命館大・同志社大・関西学院大
（問題収録校は科目によって多少変更があります）

英語　岩田一男編　一七〇円
国語　筑摩幹男編　一七〇円
数学　三省堂編修所　一五〇円
物理　白井俊明監修　一〇〇円
化学　白井俊明監修　一〇〇円
生物　中路正義編　一〇〇円
日本史　藤本邦彦編　一五〇円
世界史　尾鍋輝彦編　一五〇円
人文地理　三省堂編修所　一〇〇円
一般社会　三省堂編修所　一五〇円
英文法辞典　鈴木幸夫　東浦義雄著　携帯判　二七〇円
英語の学習に直接役立つような実際的活用を目的に編集。辞典として引くことも、参考書として読むこともできる。誰れでもわかる用例、縦横自在な索引など、まさに新しい総合英文法書といえよう。

31年版成る！
絶賛好評を得た30年版にひきつづき、ここに31年最新版を刊行した。本書は今春の入試問題はもちろん、最近五年間に全国主要大学で出題された入試問題を、それぞれの大学別に年度順にまとめ、ヒント・解答をそえたもので、受験準備の参考に一度は活用されるべきであろう。「自分の志願する大学では、どのような問題が出されているのだろうか？」本書はその鍵を解明

三省堂大学受験
英語ラジオ講座
朝日放送　毎夜　11時30分～0時

東京神田神保町　三省堂　振替東京110159

第八回県民大会行わる

ラグビー球送　東北大会出場権獲得

スポーツの秋に入り、第八回県民体育大会はスポーツの興隆をかさり、過日、八月十七、十八、十九日の三日間にわたり盛岡市の各会場において華々しく行われた。

効を奏した合宿

東北大会出場権握る

ハンドボールの部は去る八月十七日の開会式に先立って、十一、十二日の両日、盛岡一高グラウンドにおいて華々しく開催された。

まず、第一日目は試合開始九時半、本校対盛岡高との試合で大会の幕は切って落された。この試合は足よく、先取点を上げたが古豪盛岡一高がねばって激烈戦く前半7…1とリードされた。後半にも選手負、一弾となって奮戦したが及ばず11…3とこれまたリードされ結局18…4で盛一高の前に屈した。続いて東北大会出場権を掛けた一戦が敗者復活戦で盛岡高を敗った花北高との間で熱戦を繰り広げ、前半3…2とわずかにリードし、後半両校五分の試合を繰り広げ3…3の対スコアで試合終了。結局6…5で花北高を下し東北大会出場権を握った。

▽第一回戦

岩手高11（2…1 / 9…3）4盛岡高

▽決勝戦

岩手高4（1…7 / 3…11）18盛一高

▽敗者復活戦

花北高8（5…1 / 3…5）6盛岡高

▽東北大会出場権獲得戦

岩手高6（3…2 / 3…3）5花北高

我校は生々したファイトに終え、前半2…1、後半9…1と結局11対4と軽く下し第二回戦をものにし決勝に進んだ。

続く十二日は、花北高を破って勝ち進んだ優勝候補盛一の盛一高と決勝戦を混じえた。この日我校は雨天の為ノー・ゲームとなり二十六日に対戦する事になった。

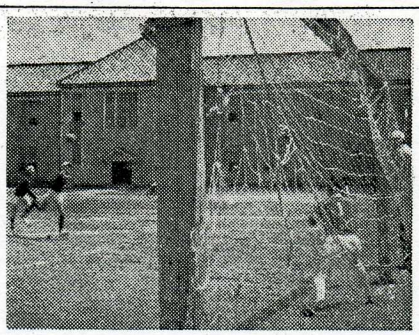
「二十六日は良コンディションの中午前十時十三分から行われた。

本校は一回表に先取点をとげ、それから村川に代って好調の中野が好打し、八回まで相手を無得点にした。しかし九回表、本校が無死二塁の時、福田が左前安打で走者の佐々木が生還、決勝の1点をとげ辛勝した。

三回戦は釜石高と五日目の二十五日市営球場で行う予定であったが雨天の為ノー・ゲームとなり二十六日に対戦する事になった。

「二十六日は良コンディションの中午前十時十三分から行われた。

準決勝は絶好の勝機日よりに恵まれた二十七日市営球場で地元の盛岡一高と対戦した。地元同志の対戦とあって、本校応援団の在校生は勿論、先輩諸氏も駆けつけて



【写真】　ハンドボール　対盛岡一高戦、善戦空しく敗れる（盛岡一高グランド）

決勝で敗れる

東北大会出場権獲得

ラグビーの部は十七日から三日間上田黄金ラグビー場で行なわれた。第一回は皇沢尻北高校と対戦したが、相手の棄権で二回戦は不戦勝。二回戦は盛岡一高と対戦し9対0で辛勝、決勝は皇沢尻工業高校と対戦、午後一時六分黒上のキック・オフで試合開始、前半15対0後半19対0の大差で敗れたが東北大会の出場権を得た。

▽第二回戦

岩手9（3…0 / 6…6）6盛一

▽決勝

黒工34（19…15 / 1…0）0岩手

県ラグビー協会主催の日大二高との交歓試合は去る二十六日黄金ラグビー場で行なわれ、本校は11対0で勝った。

脆い後半戦

籠球の部は去る八月十七日、河北小学校で行われた。本校は第一回戦、黒沢尻工業高校と対戦、前半から出だし良く、シュートが決まり21対11でリードし、後半もそのまま押し切った。

第二回戦は釜石高校と対戦、前半まで良いスタートで21対11とリードしたが後半体力的に疲れが出て来て、シュートが乱れ、15対20とおしくも逆転され、結局35対34と釜石高の前に屈した。

成績は次の通り。

△第一回戦

岩手高38（17…21 / 18…11）29黒工高

△第二回戦

岩手高34（15…19 / 20…15）35釜石高

二回戦で惜敗

ほしい闘志

バレーの部は、去る八月十八、十九日の二日間、下小路中学校々庭で行われた。

第一戦は一関一高が棄権して不戦勝。

第二戦は二日目の十八日、宿敵盛工と対戦することになっていたが折あく台風九号の影響で十時頃から雨となり、試合は中止になった。その結果、本校と盛工の試合は大会最終日の十九日に延期された。

十九日は、第一試合目の十時三十分、盛工のサーブで試合が開始された。この日、選手達は一日の休養で体力を回復したが反面、この一日のブランクで大会前から練習して整った調子にみだれが見られた。過去の対盛工戦では本校は数回勝って居たが、この日の盛工は思わぬ奮戦で、本校は難敵しく第一セット、第二セットを奪われ、2…0で敗退した。

岩手0（19…21 / 15…21）2盛工

【写真】　バレーボール　対盛岡工高戦、盛工高の死闘に屈する（市立高グランド）

準決勝で惜敗

高校野球県大会

"夏の祭典"第三十八回全国高校野球県予選大会は県下三十九校参加の下で去る八月二十一日から二十八日まで盛岡市営、盛鉄岡球場に於いて華々しく開催された。

本校は昨年の大会に於いて見事に栄冠を勝ち得、奥羽大会にもこれ又一般の予想を裏切って堂々の初優勝を成し遂げ、甲子園への出場権を得て立派な戦績を残したことはまだ記憶に新しいが、今年も又野球部は奥羽大会強いては全国大会への出場権を掴ろうと意気高らかに出場した。

一回戦は去年の福岡高と好天に恵まれた二日目の二十二日午後一時三十分から市営球場で行われた。

〔後記〕本校のエース中野が始終好投で相手の福岡を悩ました。本校一回に先取点を上げ、その後も村川を中心に着々と点数を上げ、福岡には一回裏に1点を返されたがけっきょく一方的に勝ち、初戦を飾った。

二回戦は著鋭の一関商高と四日目の二十四日午後一時三十分からめぐまれた二日目の二十三日午後一時三十分から市営球場で行われた。

| | | |